

マメダオシ

Cuscuta australis R.Br.

岡山県：情報不足

環境省：該当なし

被子植物門 双子葉類 合弁花群

ヒルガオ科

選定理由

最近では全く見つからなくなったため。

存続を脅かす要因

その他（農業形態の変化）

分布状況

温帯から熱帯まで広く分布している。岡山県内では戦後すぐまでは多く見られたが、現在は見つからなくなってしまった。

生育情報

つる性の一年草で、サイズによく寄生していたのでこの名がついているが、寄主はマメ科植物とは限らない。茎は細長く糸状で黄色。葉は鱗片になっており、目立たない。種子は径1.5mm、黄褐色で光沢はない。花冠裂片がやや鈍頭で、内部の鱗片が大きく、2裂することで、他のネナシカズラ類と区別が出来る。近年は帰化植物であるアメリカネナシカズラが様々な植物に寄生しており、マメダオシはほとんど見つからなくなっている。

文献番号 78, 116, 121

(榎本敬)



所蔵：岡山大学資源生物科学研究所



サワルリソウ

Ancistrocarya japonica Maxim.

岡山県：留意

環境省：該当なし

被子植物門 双子葉類 合弁花群

ムラサキ科

選定理由

ただちに絶滅が危惧される状態ではないが、生育地、個体数ともに少ないため、森林伐採などの人為的な要因に対するの注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

岡山県内では中部・北部に点在して生育する。湿度が適度に保たれた山地林下に生え、まれに群生することもある。本州（関東地方以西）、四国、九州の太平洋側に分布する。日本特産1属1種。

生育情報

高さ50～80cmになる多年草で、茎には短い圧毛があり、直立する。葉は茎の中部に集まり、互生する。葉は長だ円形、基部は細くなって茎に続き、無柄、裏面に圧毛がある。花期は5～6月。花序は長い総状で、茎頂付近に数個つく。花は筒状鐘形、長さ1cmほどで、萼は5深裂する。青紫色または白色。

特記事項

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

文献番号 4, 75, 130

(地職恵)



撮影：地職恵

